

## ■この1年間の反省を！

本日の修了式をもって今年度が事実上終わり、4月からは新学年に進級することになります。春休み期間中に春期講習が実施され、参加する生徒諸君もいることと思われませんが、ほとんど宿題等がない諸君もいるかと思えます。特に宿題等がない諸君は、春休み中にこの1年を振り返り、苦手科目を中心にしっかりと復習をしておくことを勧めます。模擬試験や定期考査の問題を使って復習するのも効果的かと思えます。特に模擬試験の解答・解説は有効に活用してほしいと考えています。



さて、2年生は進路活動本番までであると言う間です。ぜひ、時間を有効に使って準備を進めていきましょう。大学・短大への進学はもちろん、どの道に進むにしても、何らかの基礎学力は問われますので、少しずつ机に向かう習慣をつけておいてほしいと思います。春休み中にオープンキャンパスが開催される学校もあるかと思われれます。1月にリクルートの講演会を行い、オープンキャンパスに参加する際のチェックポイントについてまとめる機会がありましたが、やりっ放しにしないでぜひ活用して参加してほしいと思います。

1年生も4月から2年生です。まだまだ進学や就職は遠いものという感覚があるかもしれませんが、次年度は2回ほどリクルートの講演会を予定していますので、そういった機会もうまく活用して少しずつ意識を高め、大学、短大、専門学校のオープンキャンパスに早めに参加するようにしましょう。

いずれにしても、有意義な春休みとし、4月の始業式の際に元気に登校してくることを期待しています。

## ■高2保護者対象進路説明会を実施

3月12日(火)の午後6時から聖賢堂で高校2年生の保護者を対象に進路活動説明会を実施しました。今年度の進路実績についてお伝えした後、進学と就職に分けて、今後の活動の進め方についてお話ししました。特に進学については、どのくらいの費用が必要になるか、どのような奨学金があるかなどについて重点的に説明いたしました。野球等で地元を離れて本校に入学されている生徒の保護者様におかれましては、いろいろとご不安もおありかと存じます。学校としましてはできる限り、サポートして参る所存です。運動部に所属している生徒は少なくとも夏休み頃まで活動が続き、その後、切り替えて進路活動を進めていくことになるかと思われれます。いずれにしても、早くから準備を進めていくことが大事になります。



## ■合格体験記

3月2日(土)に立派に卒業していったみなさんの先輩の合格体験記。今回も複数掲載しました。ぜひ参考にしてください。

【合格体験記】 亀岡星那さん(3年4組)  
福島県立医科大学看護学部看護学科(公募制推薦)

私は幼い頃から看護師になりたかったため、中学生の頃から福島県立医科大学に入学することが夢でした。私は理系教科には弱かったため、2年生からは文系でした。理系教科が必要な福島県立医科大学は断念せざるを得ませんでした。しかし、担任の先生から福島県立医科大学の学校推薦型受験を勧められ、文系でも受験することができると分かり、受けることにしました。



試験内容は学力試験と面接で、教科は国語と英語でした。学力試験の勉強では、過去問に解答がついていなかったため、教科担当の先生に丸つけと解説をしていただきました。私の場合、一度解いただけではその解答に納得できなかったため、同じ問題を何度か繰り返し解き、先生からの説明を思い出しながら勉強していました。面接練習では、過去に同じ大学を受験した先輩の受験レポートを参考にし、面接ノートを作りました。何人かの先生に面接練習をしていただき、アドバイスをもらいながら万全の状態にしていきました。

受験当日、試験会場の人たちは英単語帳や参考書を開き、試験時間まで勉強していました。私はこの緊張した空気に耐えられなかったため、ずっと目をつむって気持ちを落ち着かせていました。面接では素直に落ち着いて答えることができました。

私がこの受験で学んだことは、一般入試では理系教科が必要な大学であっても、推薦ではそうとは限らない大学もあるということです。自分は文系だから、理系だからといって、今の志望校をあきらめるのではなく、受験方法はたくさんあるので大学の入試情報を確認してみてください。

【合格体験記】 松下那由多さん(3年4組)  
会津大学コンピュータ理工学部コンピュータ理工学科  
(公募制推薦)

私省会津大学のことを知ったのは、中学3年生の夏休みのことです。母が会津大学で行われる泊まり込みのプログラミング教室を見つけて、「参加してみたら?」と言ってきました。  
(裏面に続く)

私はそのプログラミング教室に参加して、その楽しさに目覚めました。泊まり込みの教室から戻った後、家にあったノートパソコンを使用してプログラミング学習を始め、今でも続けています。プログラミングの学習を続けていくうちに、大学でプログラミンを学びたいという気持ちが高まってきました。そこで、会津大学を目指すことにしました。



合格のためにやって良かったことは、各種検定の取得をしておいたことです。中学時代から漢字検定、数学検定、英語検定の他、ITパスポートと基本情報技術者検定なども取得しました。推薦入試を受験するにあたって、資格類は重視されるので、よく学習していました。学習に関しては、早いうちに募集要項を確認し、受験に必要な科目に力を入れていくようにしたら良いと思います。皆さんも志望校目指して頑張ってください。

【合格体験記】 宮本琉斗さん（3年6組）  
仙台大学体育学部体育学科（指定校推薦）

「指定校は落ちることはない」と言われていますが、私は甘く見ることなく、しっかりと準備をして臨むようにしました。

小論文は国語の先生などに書き方を教わり、対策をしっかりとしました。面接は色々な先生にお願いして、受け答えに不備がないように練習を重ねていきました。ギリギリで対策を始めるのではなく、できるだけ余裕をもってしっかりと対策を始めるのがベストです。しっかりと対策することで自身にもつながっていきます。



本番では、その自信から堂々と面接試験を受けることができました。面接では、第一印象が大切になると思います。清潔感、真面目さをいかに伝えられるかが重要であり、その次に大学に入学後、どのような学生生活を送りたいか、これからの人生についてどのように考えているかが問われ、それらについて、現時点での自分の考えをいかにしっかりと伝えられるかが大事になります。その大切なポイントを押さえて面接練習をするよう心がけました。

面接練習については、先生方から身振り手振りや髪型、服装で気をつけなければならないことなど、細かいところもしっかりと指導していただきました。自分がもし不合格だった時の言い訳をつくらないように、すべての部分で万全の状態に挑めるように対策していきました。皆さんも、先生方からアドバイスをいただきながら、細かなところまで気をつけて準備していった方が良いと思います。

## ■大学受験について思うこと

今年度は特進コースの日向寺芽衣さんが福島県立医科大学医学部に合格したのをはじめ、多くの生徒諸君が指定校推薦や公募制推薦、総合型入試などで希望する大学に合格しました。特に日向寺さんについては、合格が分かるとすぐに報告を依頼されていた福島民報社と福島民友新聞社に、「本校で初の福島県立医科大学医学部合格！」との一筆を付して合格者数一覧をFAXしたところ、取材依頼があり、その日の夕方、



2社合同での取材となりました。翌日の新聞に大きく取り上げられ、その記事を見たいわき市役所の地域医療の担当者から「いわき市は医師が不足しており、ぜひ将来、地元に戻って医療に携わってほしい」とのことから、地元で医学部合格者向けに開催しているセミナーの案内が届くなど注目されました。本人は大学で将来のことを考えていくとのことで、現時点ではどのような選択をするか未定とのことですが、地元で役に立ちたいという考えもあるようです。

推薦等で受験した多くの生徒が希望に燃えて大学進学を遂げていく一方で、一般入試で受験した生徒については必ずしも第一志望校合格とは限らず、厳しい結果に涙を流した生徒もいました。土日も学校に通って、朝から晩まで教室で学習していた生徒も多くおり、「あれだけ頑張ったのに・・・」という思いでいる諸君も多いのではないかと思います。

国公立大学はもちろん、東京都内の有名私立大学についても苦戦していました。あくまでも進研模試での偏差値になりますが、MARCH（明治・青山学院・立教・中央・法政）と呼ばれる大学は60台後半から70台半ばくらいのレベルであり、日東駒専（日本・東洋・駒澤・専修）も60~65くらいのところに集中しています。単純比較はできませんが、普段の進研模試で少なくとも受験に必要な科目だけでも偏差値が上記の水準に達したうえで、本番の受験に至っていた生徒はほとんどいなかったように思われます。一般入試を考えるのであれば、まずは普段受験している模擬試験でそれぞれの業者が掲げている志望校の偏差値の水準をクリアしていることが求められます。そのためにも、早くから基礎力を身につけ、応用、志望校の過去問と進めていかなければなりません。もちろん、普段の模擬試験で毎回、高い偏差値を確保していても絶対に合格できるとは限りませんが、過去の卒業生の様子などを見ても、普段から安定した成績を確保していた生徒については、良い結果（志望校合格）を残していたように思われます。1・2年生のみなさんには、普段の模擬試験で良い結果を残し、地に足をつけて受験勉強を進めていってほしいと思っています。

目標を高く設定することは大切ですが、今は変化が激しい時代ですので、浪人せずに次のステップ（大学生など）に進んでほしいと個人的には考えています。どこの学校を卒業したかは一生ついて回るものですが、「希望する企業に採用されたい（希望する職業に就きたい）」とか「社会的に評価されたい」と思うのであれば、与えられた（自分が合格した）環境でいかに自分自身に付加価値をつけていけるかが大切になります。もちろん、採用の際に「どこの大学の出身か」を見る企業もあるかもしれませんが、そればかりを見ているわけではありません。「どのような学生生活を送ってきたか」に重点を置いている企業の方が多はずです。今はどの大学も施設・設備の充実が図られ、自分の取り組み方次第でいくらかでも可能性が広がっていくのではないかと思います。先生や友達との出会いを大切にしていけるかどうかその後の人生を大きく左右すると言えるでしょう。どこの大学に進学するにせよ、その積み重ねを大切にできるかどうかで、自分の未来を切り開いていけるものと確信しています。

文責：清水聖（進路指導主事）